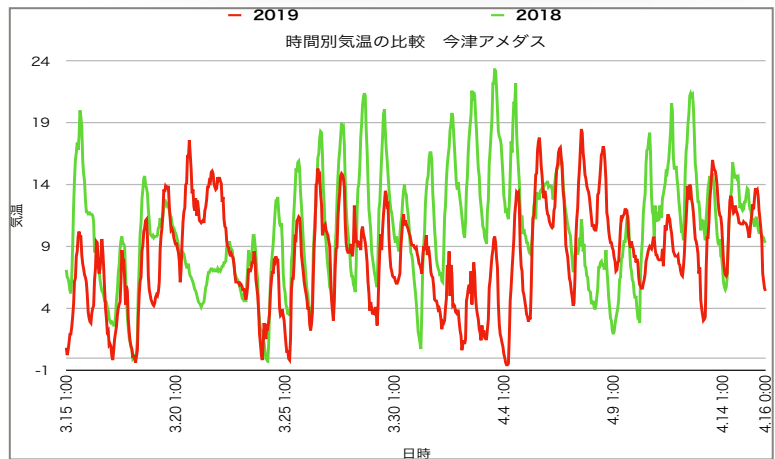


Yamakado News Letter



昨年より少し遅い春

冬はここ数年で最も積雪量が少なかった
ので、このひと月防獣対策も急がねばと作
業を進めて来ました。しかしながら、上層
のブナが黄緑色に色づき始めたのは昨年よ
り一週間から10日ほど遅めでした。3月後
半から4月前半にかけては気温が低めに推
移しましたが、それが影響したのでしょう
か。付属湿地のミツガシワや沢道沿いのハ
ウチワカエデの開花も、同様に昨年より一
週間から10日ほど遅めです。

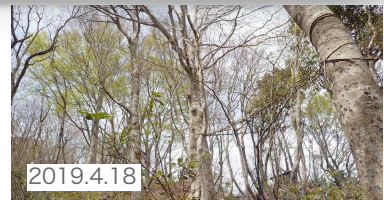
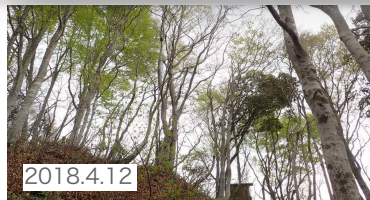


ササユリ観察木道設置

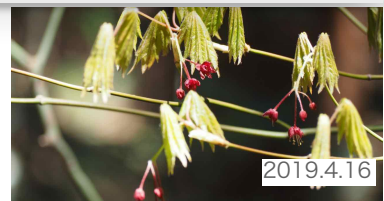
ササユリの発芽も昨年よりやや遅めです
が、それでも発芽し始めると広範囲にいっ
ときですから、対応が大変です。中央湿原
の観察道沿いでは長年の防獣対策が突っ
て、ササユリの開花数が増えました。しか
し、観察道からはササユリの花の背面しか
見えません。そこで、2月度のニュースレ
ターでも書きましたが、正面から花を観察
できるように湿原側に迂回路を作りました。
5月後半から6月初旬の開花時期には
咲き乱れるササユリを正面から鑑賞して頂
けるとと思います。是非皆さんササユリを見
にお越しくささい。



付属湿地の開花直前のミツガシワ



例年真っ先に展葉が始まるブナ ブナの森看板裏



沢道橋2つ目のハウチワカエデの開花



腐食した裏板を補強 2013.5.10



解説パネルの更新 2014.4.5



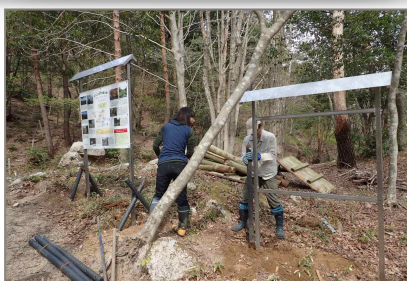
防腐塗料の塗布 2015.9.14



保全看板新設 16.3.22 Photo 藤本H



アカガシの森 看板枠交換 2019.4.20



四季の森 看板枠交換 2019.4.23

解説看板を順次更新

山門水源の森の公有化に伴い、1997年から3年をかけて観察コース・木柵・解説看板・展望台などが整備されました。一般公開後、引き継ぐ会ではこれらのメンテナンスを定期的に行ってきました。しかし、ここは多雪地域であるため、木柵は圧雪による損傷が激しく、その当時に施工された木柵はほとんど残っていません。来訪者にとって重要な情報源となる解説看板も、その都度メンテナンスを行ってきましたが、経年劣化は止められず、今後どこまで保たせられるかが課題となっていました。そのような経緯で、株式会社山久のネーミングライツ助成金を活用し、解説看板の木枠をアルミ製に交換することにしました。コース沿いには8つの看板があり、順次交換作業を行なっています。資材運びから全て人力のみで行なっています。

ユキバツバキの魅力は次世代に伝えるために

4月14日、「ユキバツバキの魅力に迫る」と題し、新潟大の阿部晴恵准教授を迎えて、講演会と現地交流会を開催しました。

阿部先生はヤブツバキやユキツバキなどを含むツバキ節の種分化に関する研究を日本と中国で行っておられます。「節」とは分類学上の階層では一番下の「種」と、その上の階層の「属」の間に位置し、属を細分する際に設けられる階級です。地球上には現在沢山の

種があり、その数は一説では約175万種と言われています。それらは互いに交配できない、生殖的隔離の状態をもって区別するという考え方が一般的ですが、「種」の定義はなかなか難しいところもある最先端の学問分野です。

ヤブツバキとユキツバキの2種はそれぞれ生育している環境が違います。山門水源の森など、それら環境の境界にあたる地域では、中間種のユキバツバキが生育し

ていますが、ユキバツバキは生殖的隔離の考え方からするとイレギュラーな存在です。阿部先生はそんなユキバツバキを調べることで、ヤブツバキやユキツバキなどを含むツバキ節の中の、それぞれの種がどのように分化したのかを解明しようとされている、といった話でした。

時間で言えば何十万年、空間で言えば中国や東南アジアを含む広大な地域を舞台とする研究です。



講演後の質問に答える阿部先生(右)



講演会場の様子



ユキバツバキを観察する子供たち
Photo 長澤